

1. 事業の位置付け

事務事業名	愛玩動物飼育啓発事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等	動物の愛護及び管理に関する法律		
対象・受益者	市民、動物の飼養者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
飼育者自らが適正な愛玩動物の管理やまちの美化に取り組んでいます。		愛玩動物の飼育者増加に伴い、飼育モラルの向上を図るため、飼育に関する情報提供や啓発を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	パンフレット配布部数			単位	部
	説明・算定式	狂犬病予防注射時にマナー等のパンフレットを配布				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標	13000	1500	13000	13000	
	実績	12668	12678	12331	12659	
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	ホームページアクセス件数			単位	件
	説明・算定式	市のホームページのうち動物愛護に係るホームページのアクセス件数				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標	9500	9500	9700	9700	
	実績	8249	9627	7480	5256	
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	動物の愛護と適正飼育に関する飼育者の社会的責任の自覚を促し、動物の飼育に対する地域住民の理解を促進していく必要があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	飼育者が果たすべき基本的役割や法令を遵守し、動物の生態、習性、生理に応じて、動物を生涯にわたり適正に飼育するという責務を啓発するために有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	飼育者と動物に好意を持たない市民の、我慢や対立のない受容による調和のとれた関係を築くため、継続的な啓発による相互理解の促進が求められています。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	継続的な取り組みが必要であり、ウェブサイトやパンフレット等を通じて、情報提供及び啓発に努めます。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		講座の開催やパンフレットの発行など	ホームページでの周知とパンフレットの配布など	ホームページでの周知とパンフレットの配布など	ホームページでの周知とパンフレットの配布など
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.22	0.22	0.22	0.20
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,847	1,847	1,839	1,652
フルコスト (A+B)		1,847	1,847	1,839	1,652

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	飼養者の責任は認識されるようになったが、実際のマナーが必ずしも遵守されていない。	飼育者の責任は認識されるようになりましたが、実際のマナーが必ずしも遵守されていません。狂犬病予防注射時において、当初は新規登録者のみパンフレットを配布していましたが、継続の方にも配布することによりマナー向上についての一層の啓発を図りました。	飼育者のマナーが必ずしも守られていないため、狂犬病予防集合注射の際、従来は犬を新規登録する市民にのみ配布していた啓発用リーフレットを、すべての飼育者に配布することによりマナー向上について一層の啓発を図りました。また、必要に応じて啓発用看板を配付・掲示しました。	飼育者のマナーが必ずしも守られていないため、啓発用リーフレットをすべての飼育者に配布することにより、マナー向上について一層の啓発を図りました。また、必要に応じて啓発用看板を配付・掲示しました。
検証結果		B:おおむね成果があがった	A:成果があがった	B:おおむね成果があがった	C:十分に成果をあげることができなかった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		獣医師会とも連携して動物の愛護及び飼養者の責任・モラルを広めていく。	獣医師会との連携を図り、動物の愛護及び飼育者の責任・モラルの啓発に努めます。	獣医師会・保健福祉事務所と連携を図り、動物の愛護及び飼育者の責任・モラルの啓発に努めます。	獣医師会・保健福祉事務所と連携を図り、動物の愛護及び飼育者の責任・モラルの啓発に努めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	さわやか条例と環境美化啓発事業		
事業担当	環境部 資源循環課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等	平塚市さわやかで清潔なまちづくり条例		
対象・受益者	市民、事業者	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 市民・事業者】		
	目的・目標		事業の概要
	「平塚市さわやかで清潔なまちづくり条例」に基づく、地区の自主的な美化活動を支援する美化推進モデル地区指定が積極的に推し進められおり、市民の美化意識が高まっています。		「平塚市さわやかで清潔なまちづくり条例」の目的を実現するため、市民や事業者との協働による清潔なまちづくりを推進するための事業を実施します。

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	平塚市美化推進委員長連絡協議会開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	2	2	2	2		
	実績	2	2	2	2		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	まちぐるみ大清掃参加者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	37000	38000	39000	39000		
	実績	37000	38000	35000	35000		
成果指標②	指標名	美化推進モデル地区指定数				単位	地区
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	5	5	5	6		
	実績	5	5	5	3		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	地域課題の解決のため、モデル地区の指定を促進していく必要性があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	地域課題の解決のため、継続的にモデル地区の指定を促進していくことで有効性を高めています。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	市民の美化意識の向上、またまちの美化向上のため効果があり、妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	行政の対応には限界があり、市民との協働により事業展開しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		環境美化啓発事業の実施	環境美化啓発事業の実施	環境美化啓発事業の実施	環境美化啓発事業の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	9,916	10,232	8,595	6,945
事業費 (A)		9,916	10,232	8,595	6,945
執行率 (%)		100.00	103.19	86.68	93.63
内訳	職員 (人)	1.15	1.15	0.90	0.90
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		9,650	9,650	7,521	7,434
フルコスト (A+B)		19,566	19,882	16,116	14,379

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	条例施行2年目を迎え、条例効果が後戻りしないよう、引き続きキャンペーン等周知啓発に努めた。また、地域課題の解決のため、モデル地区の指定を促進し、昨年の1地区に加え、新たに4地区を指定することができた。これらにより清潔なまちづくりを推進することができた。	条例施行3年目を迎え、条例効果が後戻りしないよう、引き続きキャンペーン等周知啓発に努めた。これにより清潔なまちづくりを推進することができました。また、地域課題の解決のため、新たなモデル地区の指定を目指しましたが、5地区の更新にとどまりました。	条例施行4年目を迎え、条例効果が後戻りしないよう、引き続きキャンペーン等周知啓発に努めました。また、条例の見直しで、路上喫煙禁止区域を平塚駅南口への拡大することとしました。これにより清潔なまちづくりを推進することができました。また、地域での生活環境上の課題を解決していくため、美化推進モデル地区の指定を行いました。	継続的な周知活動が必要ですので、引き続きキャンペーン等の周知啓発に努めました。また、地域での生活環境上の課題を解決していくため、美化推進モデル地区の指定を行いました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	C:十分に成果をあげることができなかった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		条例施行3年目を迎え、条例効果が後戻りしないよう、引き続きキャンペーン等周知啓発に努めるとともに、地域課題の解決のため、なお一層、モデル地区の指定を促進していく。	条例施行5年目を迎え、条例効果が後戻りしないよう、引き続きキャンペーン等周知啓発に努めるとともに、地域課題の解決のため、なお一層、モデル地区の指定を促進していきます。また、路上喫煙禁止区域のエリア拡大など条例の見直し規定に基づき、見直しを進めていきます。	条例を浸透させるために、引き続きキャンペーン等周知啓発に努めます。地域での生活環境上の課題を解決するため、モデル地区の指定を行っていきます。	条例を浸透させるために、引き続きキャンペーン等周知啓発に努めます。地域での生活環境上の課題を解決するため、モデル地区の指定を行っていきます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	西部丘陵地域資源活用検討事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、地域住民	事業期間	2007 年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 地区まちづくり協議会等】		
目的・目標		事業の概要	
恵まれた環境の保全を図りながら、自然資源、歴史資源が活用され、地域の活力が増進しています。		活力ある西部丘陵地域にするため、豊かな自然と地域資源の活用方策を検討します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	活用検討進捗率				単位	%
	説明・算定式	H22: 活用要素の洗い出し20%、H23: 活用要素の担保性の検討30%、H24: 活用指標の検討50% (H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	20 20		
成果指標②	指標名	活用検討進捗率				単位	%
	説明・算定式	H19: 意見の集約・調整40% H20: 資源活用の検討30% H21: 資源活用書の配布30% (H21年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	40 30	70 50	100 70	— —		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	吉沢地区において、自治会を中心に地域資源を活かした地域の魅力化・活性化を検討する協議会が組織され、活発な活動が行われています。市民主体のまちづくりを拡充していくため、今後も専門家の派遣が必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	都市マスタープランに取組みの方向性が示された「ひらつかウエスタンヒルズ」の地域内であり、里山の保全や地域の活性化など都市マスタープランの地域のまちづくり方針の実現化につながる有効な事業です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	自然環境に恵まれながらも適切な維持保全ができていない地域において、資源を生かした地域の活性化を市民が主体となって進めていくことは、協働のまちづくり、自然と共生した持続可能なまちづくりに重要な事業です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	地域特性を活かしたまちづくりは、市民・事業者・市がそれぞれの役割のもと協働で取り組む必要があり、市はまちづくりに関する情報の提供や活動の支援を行うことが必要で、その役割を十分果たしています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		意見の集約・調整	資源活用の検討	意見の集約、資源活用の検討、専門家の派遣	活用要素の洗い出し、専門家の派遣
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	45	0	30	30
事業費 (A)		45	0	30	30
執行率 (%)		0.00	0.00	9.84	50.00
内訳	職員 (人)	0.65	0.65	0.28	0.32
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,455	5,455	2,340	2,643
フルコスト (A+B)		5,500	5,455	2,370	2,673

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	②: 若干遅れている まちづくり条例施行後地区住民主体によるまちづくりに支援する方針としたため	②: 若干遅れている 地域が主体となってワークショップ形式等で行っているため時間を要している。	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	都市マスタープラン地域別懇談会(西部地域)等において、地域の現状や課題について参加者との意見交換を実施した。	土屋・吉沢地区の自治会に対し、ばらの丘ハイテクパーク構想を見直したることについて説明会を実施しました。また、「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」が設立され、地域資源を活かした地域の活性化についてワークショップが開催されました。	吉沢地区で組織されている「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」をモデルとして地域資源の活用検討を行っており、平成21年度は、専門家を派遣し、地域の魅力づくりをテーマにした講演を行いました。また、関係各課に同協議会が進めている活性化の実現に向けた環境共生の考え方や位置付けについて勉強会を開催しました。さらに、地域と協働で地域資源を活かした地域の活性化についてワークショップが開催されました。	吉沢地区で組織されている「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」をモデルとして地域資源の活用検討を行っており、平成22年度は、専門家を派遣し、地域資源である里山を観光という側面からの魅力をテーマにした講演を行いました。また、同協議会をまちづくり条例における地区まちづくり協議会に認定しました。さらに、地域と協働で地域資源を活かした地域の活性化についてワークショップを行いました。
検証結果		B: おおむね成果があがった 平成21年度への展開	B: おおむね成果があがった 平成22年度への展開	B: おおむね成果があがった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		資源活用検討組織等の意見を聴きながら、豊かな自然と学術機関や研究所などの地域資源を活用し、それらと共生した地域活力の促進に向けた検討を行う。	都市マスタープランのまちづくり全体構想の1地域として位置づけられており、地域住民との協働で、豊かな自然と学術機関や研究所などの地域資源の活用方法を検討し、それらと共生した地域活力の促進に向けた支援を行います。	都市マスタープランに、将来都市構造の基本構造(2核1地域)の1地域として位置づけられており、地域住民との協働で、豊かな自然のほか、学術機関や研究所などの地域資源の活用による活性化策には長い時間を要することとなりますが、継続して進めることにより、その実現化に向けた支援を行う必要があります。	都市マスタープランに、将来都市構造の基本構造(2核1地域)の1地域として位置づけられており、地域住民との協働で、豊かな自然のほか、学術機関や研究所などの地域資源の活用による活性化策の実現には長い時間を要することとなりますので、その実現化に向けた支援を継続して進める必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	景観形成促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等	平塚市景観条例		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
市民が落ち着きと潤いを感じることができ、地域の環境と調和したまちなみ景観の形成を促進します。		地域と調和し、地域の魅力を高める景観形成を誘導するため、公共・民間の建築物、工作物などに対する指導、助言をするとともに、市民と連携し良好な景観形成に努めます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	景観アドバイザー活用件数				単位	件
	説明・算定式	(H22年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	—	—	5		
	実績	—	—	—	3		
活動指標②	指標名	制度の周知手段の数				単位	回
	説明・算定式	ホームページ、広報紙、パンフレットによる周知(H19年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	3	—	—	—		
	実績	3	—	—	—		
成果指標①	指標名	届出に対する不勧告率				単位	%
	説明・算定式	不勧告件数÷届出件数×100(H20年度から設定)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	—	100	100	100		
	実績	—	100	100	100		
成果指標②	指標名	指導・助言回数				単位	回
	説明・算定式	(H19年度まで評価)					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	100	—	—	—		
	実績	176	—	—	—		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	景観計画に掲げる良好な景観形成を進めるためには、市民意識の高揚や建築物の誘導など、市が積極的かつ継続的に取り組んでいく必要があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	景観計画の目標を達成するためには、市民、事業者、市各々が取り組み、全体として進める大事な事業です。景観形成には長期間を要するため、継続して景観に配慮した建物の誘導や市民の景観形成活動への支援が有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	景観法の制定など景観に対する意識が高まる中、公共、民間の建築物の景観誘導を進めることは時代に合致しています。事業内容が、届出の指導、助言に留まっていることから、市民意識の高揚を図る取り組みが必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	建築物等の届出に対する指導・助言を行うために、必要に応じて景観アドバイザーを適切に活用することは効率的な取組みと言えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		事業者に指導・助言	事業者に指導・助言	事業者への指導・助言 及び市民への普及啓発	事業者への指導・助言 及び市民への普及啓発
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	120	40	620	340
事業費 (A)		120	40	620	340
執行率 (%)		20.00	6.67	103.33	62.12
内訳	職員 (人)	1.15	1.15	1.90	1.80
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		9,650	9,650	15,877	14,867
フルコスト (A+B)		9,770	9,690	16,497	15,207

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	③:遅れている 景観アドバイザーの活用を必要とする案件が3件だったため
	主な取組と成果	湘南ひらつか都市景観づくり要綱に基づく協議・届出制度により届出者に対して指導、助言を行ない、良好な景観形成が誘導できた。一方、法的根拠や強制力を持たない要綱による指導では、十分な規制・誘導を行なうことができない場面も生じている。	湘南ひらつか都市景観づくり要綱に基づく協議・届出制度により届出者に対して指導、助言を行ない、良好な景観形成に誘導を行いました。	景観法に基づく景観計画、景観条例による事前協議・届出制度により、届出者に対して指導、助言を行い、良好な景観形成に向けた誘導を行うとともに、市民への普及・啓発に努めました。	景観法に基づく景観計画、景観条例による事前協議・届出制度により、届出者に対して指導、助言を行い、良好な景観形成に向けた誘導を行うとともに、市民への普及・啓発に努めました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。今後、新たな景観計画・景観条例の策定を受けて、より効果的な事業の推進に取り組む。	景観計画・景観条例の策定を受けて、良好な景観形成を促進するため、市民及び事業者へ周知を図る必要があります。	良好な景観の必要性や景観形成を図る上で配慮すべきことなどを市民に周知するとともに、主体となって市民が取り組む地域の景観形成活動に対するきっかけづくりや支援に取り組む必要があります。	良好な景観の必要性や景観形成を図る上で配慮すべきことなどを市民に周知するとともに、市民が主体となって取り組む地域の景観形成活動に対するきっかけづくりや支援に取り組む必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	花とみどりのまちづくり推進事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等	緑化の推進及び緑の保全に関する条例		
対象・受益者	市民・モデル地区住民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 市民・自治会住民】		
	目的・目標		事業の概要
草花の植栽を通して市民の緑化意識の高揚を図り、花とみどりに触れられる場が確保されています。		緑化意識の高揚と学校など公共施設の緑化推進のため、小・中学校などには草花の種子や苗を配布します。また、駅周辺や公共空地では、植栽管理など市民の自主的な緑化活動を支援します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	草花の配布数				単位	株
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	11000	11120	11000	10400		
	実績	11000	11000	10600	10400		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	公共空地への植栽箇所数				単位	か所
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	270	280	250	250		
	実績	249	249	246	250		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	モデル地区のスポット植栽や、公共施設のプランター花壇250か所の植栽を行っています。計画的なみどり行政を進めるうえで、草花の植栽を通して、市民の緑化意識の高揚を図る必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	公共施設や公共空地に花や球根を配布したり、市民と協働で花苗を植栽することは、花とみどりのあるまちづくりの実現のために有効です。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低 	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	市民参加の花とみどりのまちづくりの推進と支援を行うには、維持管理にかかる活動をいかに市民主導で実施してもらうかが課題です。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高 ● 中 ○ 低 	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> □ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	植栽する大量の草花をより安価で安定的に供給するため、年間スケジュールをたてて事業を運営しています。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高 ● 中 ○ 低 	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		種苗などの配布、公共 空地にプランター設置	種苗などの配布、公共 空地にプランター設置	種苗などの配布、公共 空地にプランター設置	種苗等の配布、公共空 地へのプランター設置
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	7,838	0	7,908	7,348
	一般財源	0	7,990	0	0
事業費 (A)		7,838	7,990	7,908	7,348
執行率 (%)		99.95	101.71	100.48	96.79
内訳	職員 (人)	0.75	0.75	0.75	0.65
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		6,294	6,294	6,267	5,369
フルコスト (A+B)		14,132	14,284	14,175	12,717

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	学校などの公共施設の緑化推進のため、小・中学校などには、草花の種子や苗を配布した。また、潤いのある街づくりを進めるための、花とみどりのモデル地区である八重咲町自治会と協働で、地域花壇、街路樹帯及び中央地下道側道に夏5,500株、秋5,500株の草花を植栽した。公園、広場等の公共用地及び公民館等41箇所に住民団体、公共機関の協力を得て、249個のプランター花壇等を設置し、花とみどりにあふれた景観づくりに取り組んだ。	学校などの公共施設の緑化推進のため、小・中学校などには、草花の種子や苗を配布しました。また、潤いのある街づくりを進めるための、花とみどりのモデル地区である八重咲町自治会と協働で、地域花壇、街路樹帯及び中央地下道側道に夏5,500株、秋5,500株の草花を植栽しました。公園、広場等の公共用地及び公民館等41か所に住民団体、公共機関の協力を得て、249個のプランター花壇等を設置し、花とみどりにあふれた景観づくりに取り組みました。	学校などの公共施設の緑化推進のため、小・中学校などには、草花の種子や苗を配布しました。また、潤いのある街づくりを進めるための、花とみどりのモデル地区である八重咲町自治会と協働で、地域花壇、街路樹帯及び中央地下道側道に夏5,300株、秋5,300株の草花を植栽しました。公園、広場等の公共用地及び公民館等39か所に住民団体、公共機関の協力を得て、246個のプランター花壇等を設置し、花とみどりにあふれた景観づくりに取り組みました。	学校などの公共施設の緑化推進のため、小・中学校などには、草花の種子や苗を配布しました。また、潤いのある街づくりを進めるための、花とみどりのモデル地区である八重咲町自治会と協働で、地域花壇、街路樹帯及び中央地下道側道に夏5,200株、秋5,200株の草花を植栽しました。公園、広場等の公共用地及び公民館等41か所に住民団体、公共機関の協力を得て、250個のプランター花壇等を設置し、花とみどりにあふれた景観づくりに取り組みました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		都市景観が重視される中で、花やみどり豊かなまちづくり、自然環境の保全は注目される分野であるが、維持管理にかかる活動を、いかに市民主体で実施するかが課題である。	都市景観が重視される中で、花やみどり豊かなまちづくり、自然環境の保全は注目される分野ですが、維持管理にかかる活動を、いかに市民主体で実施するかが課題です。	都市景観が重視される中で、花やみどり豊かなまちづくり、自然環境の保全は注目される分野ですが、維持管理にかかる活動を、いかに市民主体で実施するかが課題です。	都市景観が重視される中で、花やみどり豊かなまちづくり、自然環境の保全は注目される分野ですが、維持管理にかかる活動を、いかに市民主体で実施するかが課題です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	生垣設置奨励事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等	緑化の推進及び緑の保全に関する条例		
対象・受益者	生垣設置者	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 住民】		
目的・目標		事業の概要	
みどり豊かな環境と市民生活の安全が向上しています。		みどり豊かな住みよい環境づくりと防災のため、通学路に面した家庭や新しく家を建てられる方に対してパンフレットの配布などで啓発を行い、生垣の設置に対して支援します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	個別訪問等によるPR活動件数				単位	件
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	700	700	700	700		
	実績	1783	1106	1589	1975		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	生垣設置総延長				単位	m
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	8400	8700	9020	9340		
	実績	8220.7	8287.7	8389.3	8439.7		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 □ コスト削減の可能性 ■ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	<p>みどり豊かな住みよい環境づくりと防災の見地から、市民ニーズは高いが、必要な時に情報が入手できるように、市が地道にPRしていく必要があります。</p> <p>ブロック塀等の倒壊による被害を防ぐためにも、関係課と連携して、PRを継続していくことは有効性が高いと思われます。</p> <p>生垣設置により緑が増加することに加え、危険なブロック塀等の倒壊を防ぐ手段としても妥当性が高いと思われます。</p> <p>PRの方法については、従来の方法だけではなく、これから家を新築する人たちに制度を周知するために、不動産業界、造園業界、住宅展示場などに積極的に働きかけていきます。</p>

3. 年度別事業内容・決算額

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		生垣設置の支援	生垣設置の支援	生垣設置の支援	生垣設置の支援
財源内訳	国庫支出金	112	70	106	52
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	225	0	199	99
	一般財源	0	131	0	0
事業費 (A)		337	201	305	151
執行率 (%)		35.10	20.94	31.77	15.75
内訳	職員 (人)	0.21	0.21	0.21	0.26
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,763	1,763	1,755	2,148
フルコスト (A+B)		2,100	1,964	2,060	2,299

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	広報紙2回掲載、戸別訪問によるパンフレット配布(松原地区462件、富士見地区1,321件 計1,783件)、緑化まつり期間中のPR活動を行うとともに、みどり豊かな住みよい環境づくりと防災のため、通学路に面した家庭や新しく建てられる方に対して、パンフレットの配布等で啓発を行い、生垣設置者へ奨励補助金を交付した。(8件 112.15m 336,450円)	広報紙2回掲載、戸別訪問によるパンフレット配布(花水地区578軒、なでしこ地区528軒 計1,106軒)、緑化まつり期間中のPR活動を行うとともに、みどり豊かな住みよい環境づくりと防災のため、通学路に面した家庭や新しく建てられる方に対して、パンフレットの配布を行うほか、造園協会、宅建協会、不動産協会、ハウジングプラザ等にパンフレットを置いて啓発を行い、生垣設置者へ奨励補助金を交付しました。(7件66.95m 200,850円)	広報紙2回掲載、戸別訪問によるパンフレット配布(中原、大原、松が丘地区836軒、南原、真土地区753軒 計1,589軒)、緑化まつり期間中のPR活動を行うとともに、みどり豊かな住みよい環境づくりと防災のため、通学路に面した家庭や新しく家を建てられる方に対して、パンフレットの配布を行うほか、造園協会、宅建協会、不動産協会、ハウジングプラザ等にパンフレットを置いて啓発を行い、生垣設置者へ奨励補助金を交付しました。(9件101.6m 304,800円)	広報紙2回掲載、戸別訪問によるパンフレット配布(大野地区464軒、八幡地区325軒、松延地区729軒、山下地区457軒 計1,975軒)、緑化まつり期間中のPR活動を行うとともに、みどり豊かな住みよい環境づくりと防災のため、通学路に面した家庭や新しく家を建てられる方に対して、パンフレットの配布を行うほか、造園協会、宅建協会、不動産協会、ハウジングプラザ等にパンフレットを置いて啓発を行い、生垣設置者へ奨励補助金を交付しました。(3件50.4m 151,200円)
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		チラシの各戸配布によるPR方法を検証し、地道なPR方法の継続と、これから家を建て塀を設置する可能性のある、よりニーズの高い対象へのPRも行っていく。	チラシの各戸配布によるPR方法を検証し、地道なPR方法の継続と、これから家を建て塀を設置する可能性のある、よりニーズの高い対象へのPRも行っていきます。また、他施策(ブロック塀等防災工事補助:建築指導課)と協力して、積極的に事業展開をしていきます。	チラシの各戸配布によるPR方法を検証し、地道なPR方法の継続と、これから家を建て塀を設置する可能性のある、よりニーズの高い対象へのPRも行っていきます。また、他施策(ブロック塀等防災工事補助:建築指導課)と協力して、積極的に事業展開をしていきます。	補助金対象条件の総延長5m以上を3m以上に緩和し、専用住宅のみから併用住宅にまで拡大する。チラシの各戸配布によるPR方法を検証し、地道なPR方法の継続と、これから家を建て塀を設置する可能性のある、よりニーズの高い対象へのPRも行っていきます。また、他施策(ブロック塀等防災工事補助:建築指導課)と協力して、積極的に事業展開をしていきます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	エコ・ミュージアム推進事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 東海大学、地域住民等】		
	目的・目標		事業の概要
地域市民の手により自然環境、歴史、文化遺産を保存、再生、修復、保護し、展示や伝承することで、地域の風土を守り、育てる意識が高まり、地域市民が地域に誇りを持ち、地域全体が活性化し、住みやすいコミュニティが形成されています。		金目地区の自然環境、歴史、文化遺産を再認識し、保存・展示・活用するため、「エコミュージアム金目まるごと博物館」が策定した実施計画事業に取り組みます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	推進委員会開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	12	13	14	12		
	実績	12	12	13	11		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	登録会員数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	60	65	70	85		
	実績	60	84	84	73		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	歴史、文化等に関する資源の特性を活かした、地域単位で実施する「エコミュージアムによる協働のまちづくり」であり、市、地域住民ともに取り組むべき価値がとて高い事業です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	地域住民が、金目地域に誇りと愛着をもち、その魅力を広域的に発信する活動を通じて、新たな地域間コミュニティの形成や観光、経済に対する効果が期待されるほか住みやすいまちづくりにもつながり有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	文化遺産や花畑等の土地所有者やボランティア組織を活用した文化遺産の管理や街並みの整備、花畑の維持管理等を進めるなど、今後の事業展開に基づき、様々な可能性を含めて検討します。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	運営手法やコスト削減の面などにおいて、まだ検討の余地が残っています。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		推進委員会、作業部会 による検討	基本計画の策定	実施計画の策定	エコミュージアム実施計 画事業の着手
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	1,000	1,000	1,200	500
事業費 (A)		1,000	1,000	1,200	500
執行率 (%)		100.00	66.67	60.00	100.00
内訳	職員 (人)	0.80	0.80	0.80	0.85
	再任用 (人)	0.50	0.50	0.50	0.30
人件費 (B)		8,428	8,428	8,410	8,043
フルコスト (A+B)		9,428	9,428	9,610	8,543

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	平成19年6月に「エコ・ミュージアム 金目まるごと博物館推進委員会」を市民と協働で設立した。また、将来の事業展開の足がかりとするため、年間を通して様々な分野で各世代を対象としたイベントを実施した。これらにより金目地区の自然環境、歴史、文化遺産を再認識し、保存・展示・活用することができた。	平成20年度は「エコ・ミュージアム 金目まるごと博物館」基本計画を策定しました。また、将来の事業展開の足がかりとするため、年間を通して様々な分野のイベントを実施したほか、『かなひ(金目)の歴史ガイドブック』を作成するなど、金目地区の自然環境、歴史、文化遺産を再認識し、保存・展示・活用するための事業が行われました。	平成21年度は、前年度に作成した基本計画に基づき、「エコミュージアム 金目まるごと博物館」実施計画を策定しました。また、将来の事業展開の足がかりとするため、年間を通して様々な分野のイベントを実施したほか、『金目の自然・景観ガイドブック』を作成するなど、金目地区の自然環境、歴史、文化遺産を再認識し、保存・展示・活用するための事業が行われました。	平成22年度は、前年度に策定した「エコミュージアム 金目まるごと博物館実施計画」に基づき、初年度の計画事業の1つである『金目産業マップ』が完成しました。また、ガイドボランティア組織の設立準備として、規約案や当委員会における位置づけの検討を進めながら、金目地区の自然環境、歴史、文化に関する地域資源を活用したイベントも実施しました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		事業の趣旨を念頭に置きながら、今後の基本計画・実施計画の策定を進めることが求められる。	基本計画が策定されたことにより、今後は実施計画の策定を進めることになります。	将来的に独立した組織運営を図っていくための方策や事業内容について検討していくことが必要です。	実施計画に基づく年度別事業の進捗状況等を検証することで、中・長期目標の設定・見直しを行い、具体的かつ多角的な将来のビジョンを定めていくことが必要となります。